

小学6年

国語

## 詩を読んで想像を広げる

言葉から様子や気持ちを思いうかべる

自分で考えて書きましょう。わからないときは、QRコードで動画の場面を見よう。

- ① 詩の「ぼくより さきに 家についた」から想像できることで、詩の言葉に合っているのは、「ぼくは走って帰った」「かげが長くのびている」「家が とても 遠い」のどれですか。



動画で見る  
場面 4  
「かげ」

- ② 「ふりむくと」「ゆっくり しずんでいく」から、どんなことを想像できますか。



動画で見る  
場面 5  
「気持ち」

## 詩を読んで想像を広げる

言葉から様子や気持ちを思いうかべる

- ① 詩の「ぼくより さきに 家についた」から想像できることで、詩の言葉に合っているのは、「ぼくは走って帰った」「かげが長くのびている」「家がとても遠い」のどれですか。

**ヒント** 詩のどの言葉が手がかりになるかを考えよう。

**答え** 「かげが長くのびている」です。「かげがながくのびて」が手がかりになり、かげが先に家へ向かうようすを想像できます。走ったかどうかや、家までの距離は、この詩の言葉だけでは判断できません。

- ② 「ふりむくと」「ゆっくりしずんでいく」から、どんなことを想像できますか。

**ヒント** 詩の第三連を読み返そう。

**答え** 詩の中の「ぼく」が足を止めて空を見ているようすを想像することもできます。また、一日が終わる名残おしさをを感じる人もいます。感じ方は人によってちがってかまいません。